

社会を明るくするため

北の杜学園 七年 岩本 隆太

私が思う「明るい社会とは、誰もが安心してくらせる社会です。道を歩いていても、こわいと思いをすることがなく、だれかが困っていたら自然と助け合えるような社会です。しかし、ニュースや新聞では、時々、犯罪や非行のことが取り上げられています。そんな時、「どうしてこんなことが起こってしまうのだろうか」と考えます。

犯罪や非行は、やった人だけでなく、まわりの人や社会全体に大きな傷を残します。盗みやぼうりよくは、被害にあった人の心を深く傷つけるだけでなく、地域の人たちの安心感も壊れてしまいます。また、犯罪や非行に走った本人も、将来の可能性を失い、家族や友達との関係もこわれてしまいます。だから、そうなる前にふせぐことがとても大切だと思います。

では、どうしたら犯罪や非行のない社会を

つくろってしょうか。私は「身近なつながり」と「思いやりの心」が大きな力になると思います。たとえば、あいさつです。毎朝、近所の人に「おはようございます」と声をかけ合うことで、お互いの存在を確認でき、信頼関係が少しずつ生まれます。信頼があれば、「困っている」と声をあげやすくなりますし、周りも気づきやすくなります。

また、学校や家庭での「閉く次女勢」も大切ですよ。友だちが悩みを打ち明けた時、「そんな

なこと気にしないで」と流してしまうと、その人はますます孤独を感じてしまうかもしれません。いさなサンに気づき、しっかり話を聞くことが、非行や犯罪への第一歩をふせぐことにつながると私は考えます。

地域の行事やボランティア活動も効果的です。ゴミ拾いやぼん活動など、目的を持って協力することで、年齢や立場をこえて人と人がつながります。そうした活動を通じて、「自分は社会の一員だ」という意識が生まれ

、ルールを守る気持ちも強くなります。
もちろんすぐに犯罪や非行がなくなるわけ
ではありません。しかし、一人ひとりが「自
分にできること」を行動にうつせば、少しず
つ社会は変わっていくと思います。私自身、
毎日のあいさつや、困っている人を見かけた
ら声をかけることを続けていきたいです。
「社会を明るくする運動」は、特別な人だけ
が取り組むものではありません。大人子ども
も、誰でも参加できる運動です。そして、最
初の一步はとも小さな行動でかまわないと
思います。やさしい言葉、思いやりのある行
動、あいさつの笑顔そうした小さな光が集ま
れば、必ず大きな明るさになります。
私は、これから自分の周りから明るさを
広げ、犯罪や非行のない社会づくりに少しで
も力をそそぎたいです。そして、だれもが笑
顔で過ごせる毎日を、みんなであつていき
たいと思います。